

あるいて比也野

比也野里まちづくり委員会 広報部発行

根付いてきたまちづくり活動を さらに充実したものに



会長 生田 頼夫

暑さ、日ごとに加わり夏本番の季節になってまいりました。比也野の皆様には、益々ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、私、永尾会長の後任として、その大役をお受けすることになりました。なにぶんにも微力、非才の身ではございますが、比也野里まちづくり活動を更に充実したものにすべく、ご一緒していただく委員の皆様と共に、誠心誠意、努力していく所存でございます。皆様方の温かいご支援と、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

物的には満ち足りた現在ではございますが、経済の不況、地場産業の衰退、人と人との信頼関係のすべてに於いて余裕がなく、特に若者の心の不安定さを感じる今、このまちづくり委員会の活動を通じて、少しでも心に安らぎを感じてもらえるよう、取り組んでまいりたいと思っております。住みよい町、生きがいのある町づくりとは、人と人とのつながりを更に強くし、その輪を大きく広げていくことだと思います。

委員 氏名		参 与	
比延町区長	三和田修造	比延町区長	泰永 善幸
上比延町区長	藤原 優	中畑町区長	藤原 優
住吉町区長	小南 薫	鹿野町区長	廣田 作太
塚口町区長	飛田 忠	高嶋町区長	山本 昇
堀 町区長	小谷 啓二	顧問	永尾 豊
副会長	生田 頼夫	副会長	小谷 敏信
副会長	波 幸宏	事務局長	村井 正信
事務局次長	岡田 康作	会計	武部陽一郎
歴史文化財部長	山本 和喜	自然保護部長	山上 章三
リクリエーション部長	今村 清昌	観光事業部長	藤原 義明
広報部長	飛田 義忠	監査	岩切 政文
監査	岡本 和男	委員 (役員と重複記載)	
比延 町	小林 哲巳	比延 町	鈴木 隆文
	吉田 典子		波 幸宏
	永尾 豊		武部 紀子
上比延町		上比延町	
山上 章三	岡本 和男	坂倉 栄	山上 英俊
生田 悟	武部由紀美	西山 昌利	武部陽一郎

中畑町	藤原 義明	山本 和喜
	熊原 一基	藤原 利昭
	藤原 邦子	松下 郁代
住吉町	岡本 勝也	絹川喜和美
	岡本 武史	今村 清昌
鹿野町	岸本 弘行	藤本 直幸
	岸本 政勝	戸田 真吾
	藤本 裕子	土本 直未
	戸田いつみ	宮永美佐子
	岸本 洋二	藤本 透
	生田 頼夫	村井 正信
塚口町	飛田 久美	飛田 義忠
	岩切 政文	
高嶋町	清瀬 英通	
堀 町	片浦 敏明	岡田智栄子
	小谷 佳余	小谷 敏信
	岡田 康作	

比也野里予定

七月一日	比延保育園お泊まり保育
	比延小土曜ふれあい学級
五日	市内総合体育大会
九日	岡の山祭り
十五日	鹿野祇園神社祭
十六日	子供会球技大会

八月十三日	塚口盆踊り
十四日	鹿野盆踊り
十五日	中畑盆踊り
十六日	高嶋・堀盆踊り
十七日	上比延盆踊り
十八日	住吉盆踊り
二十四日	比延盆踊り

スポーツライト 西脇市消防団第五分団 分団長 山口 貴浩



私達消防団員は、地域住民をあらゆる災害から護るため身を挺して防災活動に従事する責務を負っています。

ここで、第五分団(比延地区)の平成十二年度役員を紹介致します。分団長 山口貴浩、副分団長 北田隆雄、専任部長(中畑部)菅野 誠、比延部長 田中伸樹、上比延部長 山上英俊、鹿野部長

広田直紀、住吉部長 絹川正康、塚口部長 勝岡一浩、高嶋部長 桜井康則、堀部長 小谷 学 以上十名のもと百二十七名の団員がおります。活動面では、機械器具の精通と技術向上、団結力を図るための操法市内大会が六月四日に挙行され私達分団では、ポンプ自動車の部で比延部が優勝、小型ポンプの部で住吉部が準優勝と優秀な成績を収めることができました。比延部におきましては、七月十六日の北播大会に西脇市を代表して出場することになり、栄光を勝ち取らんと日夜訓練をしております。これからも第五分団の活動に対しましてご理解とご協力を宜しくお願い致します。

こんなのどうですか? 「大地の子」文春文庫 山崎 豊子

「大地の子」は、ある一人の中国残留日本人孤児の半生を描いた長編小説ですが作者は、八年の歳月をかけ何人も孤児にあつてその体験をつなぎ合わせて作っています。本当にあつたことばかりなので読んでいて、涙があふれ胸が痛くなるのが幾度もありました。この本を読むまで、日中間の歴史をほとんど知りませんでした。しかし、この作品で歴史の真実を知ることが出来ました。私は戦争を知りません。しかし知らないと言つてはすまない、知つた上で戦争の悲劇を二度と繰り返してはならないと強く思い

ました。又、この作品は、一九九五年NHKで放送七〇周年記念番組として放送され映像化は難しいと言われていたのを、日中合作によって非常に原作を生かした形でテレビ化されています。多少美化された部分もありますが、人間愛、特に父の愛が画面から滲み出る様なドラマなので、感動して毎回泣きながら見た人も多いのではないのでしょうか。ビデオも出ているので、家族で是非観てほしい作品です。

竹本 久美

堀町の理容「カタオカ」は昭和四十二年創業。この仕事で、一番気をつけていることは、自分の健康。健康維持のために毎日一時間歩いているんですよ」と言われた。主人は、六十歳。とても若々しい。

お店をたずねて 理容「カタオカ」

また、お客さんと散髪をしながら趣味の話をするのが何よりの楽しみです」と言われた。魚つり・盆栽・花作りなど多趣味。



よく伺えました。お客さんは年配の方が多くご主人の人柄にひかれて来られる方ばかりのようです。これからも、仕事はもちろんのこと、趣味にも磨きをかけていってくださいね。

楽しんでます 比延ソフトボールクラブ

だ若い人に負けずに頑張って走りまわっています。試合になれば体が動かない分、口が動いて大変賑やかに楽しくやっています。また試合後の

比延ソフトボールクラブは今年で創部二十年を迎え、現在西脇市ソフトボール協会のA級に所属しており、比延町在住の二十歳から六十歳までの約二十名が登録し、年六回の大会に出場しています。

チームのモチベーションは、まずソフトボールを楽しむこと、そして勝ことです。チームの特徴は、その主力を五十歳前後の選手が占めているということです。まだまだ



反省会？はもつと賑やかにやっています。成績はというと、毎年四〜五勝し、たまには優勝することもあります。そんなチームの唯一の自慢は、人数が揃わなくて試合を棄権したことが一度もないことです。必ず試合が始まるまでに九人集めます。また、旅行やゴルフコンペをすることもあります。

歴史探訪 まぼろしの戸籍

近世では明治四年に初めて戸籍がつくられ、これを「壬申（じんしん）戸籍」といわれています。えとの十二支つまり「みづのえさる年」に出来たものです。（この年まわりは六十年毎ですから、昭和七年と平成四年のさる年の人が壬申という事です）当時の村々の区長（戸長）が政府の布告で作成しました。この戸籍「ある一つの工夫がされているようです。」



それは、家に跡継ぎの子供がないときや、跡継ぎの男の子が生まれるかどうか分からない時「御家断絶」というき

びしい制度から逃れるため、早めに近所の適当な若者や子供を後継者として、親子縁組が盛んに行われていたようです。そして実子が産まれた場合元に復縁してもらっていましたが、明治二十一年に戸籍簿が書き直されて、これらの記

述はすべて削除され幻となりました。また戸籍とは関係ありませんが、生まれた子供が益々健康に育つようにとの親の願いから「捨子拾い子」の儀式もありました。昔は特に生後一カ月位で可愛い命が亡くなったり病身の子供も多かったために、近所の代々順調な健康的な家庭の子としてその幸せにあやかる親心から、道の四つ辻に自分の子を捨て、その親に拾ってもらおうと言うもの

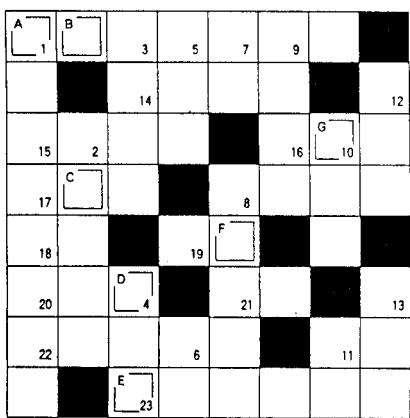
ちよつと一考

〈タテのカギ〉

- 野菜や果樹などに手を加え早く成長させる手法
- ↑直線
- 朱色の肉印
- 航海中の船が港に寄ること
- 前もって何となく感じること。恋の○○○
- の恩返し
- 髪の毛をすく道具
- ゴルフでクラブがボールに当たる瞬間
- 一つのこと熱中するさま
- 関税貿易一般協定の略称
- 草や芝を刈る農具
- 関係者が集まり議題について話し合う会合
- ぶどう酒

〈ヨコのカギ〉

- 部屋などを美しく装飾する品物
- 歌の途中などで息を吸い込むこと
- ↑上位
- 床のした。↑床上
- 成すべき務めとして、自ら引き受けなければならぬもの
- ↑有害
- 積極的に行おうとする心
- フェンス
- イー、リヤン、○○
- 過去に建築物などのあった場所。旧跡
- 田周率を表す記号。π
- タイの首都
- 怪獣をやっつけるヒーローだが、直訳すれば超人



■AからGまでの文字をうまく並びかえるとある言葉になります。

解答の言葉と住所・氏名を書いて葉書で応募下さい。×切は、7月31日。抽選で5名様に、素敵な記念品をプレゼント。送り先 西脇市野村町 西脇郵便局私書箱40号 前号クイズ正解・波瀾万丈 当選者
加美町・吉田寛子さん
中畑町・横山紀子さん
鹿野町・岸本ちず子さん
野村町・藤原由里さん
鹿野町・小西池みゆきさん
記念品をお送りします。

編集後記

比也野里町づくり委員会が発足して2年半余りがたち、メンバーも一部入れ替わり新しい会長のもと気分を一新して再スタートをしました。広報部にも小林、山上両氏の新人を迎えさっそく紙面の刷新に取り組んでおります。ともしればマンネリに陥り情報のネタ切りに苦しんでいますので、地域の事なら何でも結構です御意見、情報をどんどんお寄せ下さいお待ちしております。

お詫びと訂正
第十四号「楽しんでます」の文中「全骨格を短直し」が「全骨格を矯正し」の間違いでした。お詫びして訂正します。

一生涯折々の親族付き合いが行われます。このようにして子供がすくすくと育ち、神仏の加護をつけて個人の付き合いはもとより、家付き合、村付き合いに支障なきよう社会の一員として、懸命の努力をして今日の各家庭が継承されて来たものです。